



大勢の人でにぎわう昭和村のブース

横浜開港記念バザーで村をPR

第86回横浜開港記念バザーが5月31日から6月6日にかけて横浜公園で開催され、村ではPRのため、出店しました。このバザーは横浜の開港記念日である



昭和村の特産物がずらり

6月2日を祝うもので、同日を含む一週間の日程で毎年開催されています。出店は、村商工会が中心となり、道の駅めぐりむ昭和などの協力により行われました。

会場にはおよそ100の店舗が横浜スタジアムを囲むように並び、村のブースでは、レタスやキャベツなどの高原野菜をはじめ、こんにゃく製品や味噌など農産物加工品も販売。村をPRしました。

「昭和村の野菜をいつも楽しみにバザーに来ています」と再び訪れるお客さんも多く、村のテントは連日賑わいました。

赤城山船ヶ鼻登山道で安全祈願祭

赤城山船ヶ鼻登山道の安全を祈る祈願祭が5月21日、長者の原・結婚の森で行われました。

この登山道は、地元の登山愛好家からの要望を受け整備したもので、長者の原・結婚の森を登山口として全長9.8kmとなっており、牛石コース(5.8km)と榎水コース(4km)の2つのコースが設定されています。

祈願祭には、村関係者や登山愛好家などおよそ40人が出席。神事にあたり堤村長は「こころは、結婚の森として大山桜の植樹を長年かけて進めている場所です。



玉串を奉奠する堤村長

また、珍しい動植物もあり、登山とともにこうしたところも楽しんでください」とあいさつ。

神事後、新緑に囲まれた登山道の登り初めが行われました。



出席者らによる登り初め

千年の森工業用地に

メガソーラー

村が分譲する千年の森工業用地で、コムシスクリエイト株式会社(東京都品川区、樽川正義社長)が5月15日、村内第2号となる大規模太陽光発電施設の工事の安全を祈る地鎮祭を行いました。

同社は、すでに平成25年に設置・稼働している約4.9ヘクタールの施設の隣に、約6ヘクタールの用地を借り受け施設を整備するもので、およそ1万4500枚のソーラーパネルを設置し、年間発電量460万kwhを見込んでいます。



千年の森工場用地で行われた地鎮祭

河岸段丘ハーフマラソン開催

昭和村マラソン実行委員会(堤盛吉委員長)が主催する「第3回やさしい王国昭和村 河岸段丘ハーフマラソン」が5月28日、村総合運動公園特設会場を発着点に開催されました。



園児たちがランナーを応援

マラソンには、県内外から1,326組1,441人のランナーが参加。ハーフ(高校生以上)21km、5km(中学生以上)、2km(小学生・ペア(親子・一般)の3種目で行われ、コースとなった望郷ラインや大規模農道の沿道に集まった人たちの応援を受けながら、ランナーが走り抜けました。

また、会場では赤城高原農業観光協会や村商工会などによるおもてなしが行われました。なお、この大会は、スポーツくじotto・BIGの助成を受けて実施しています。

大河原小で

経験者を招き授業

大河原小学校では、6年生の「総合的な学習」と題し経験者をゲスト講師として招き、赤城を開拓した先人の思いを知って未来につなげていくための授業を行っています。

5月19日には、「現在の昭和村を知ろう」と題した授業を、堤村長が担当。村の歴史や現在の状況、そして今後の展望などをわかりやすく説明しました。授業を受けた9名の児童たちは熱心に耳を傾けました。



熱心に授業を受ける児童たち

清流の会が受賞記念祝賀会

NPO法人清流の会(今橋憲雄理事長)が法務大臣感謝状を受賞し、また、内閣府チャイルド・ユーススポーツ章を受賞したことから、記念祝賀会が5月24日、沼田市内で開催されました。

これは、保護観察中の少年の改善更生と社会復帰に貢献したことや、村ふるさと大使の荒井宏二氏(東京都板橋区)をはじめ戦時中に川龍寺に疎開していた縁もある板橋区立志村第五小学校との交流、村の行事等にも積極的に参加をいただき、子供・若者への様々な育成支援に貢献したことに贈られたもの。

祝賀会の開会にあたり、今橋理事長は

「会員一人ひとりが自らやさしく気遣いをして、罪を犯した人たちに対し年齢を聞いたり、どこから来て何をしたかなど詮索するようなことを一切せず、温かいまなざしを向けてきたからこそ、長い間活動を継続することができました。これからも地域の人々が健やかで安心して過ごせるように積極的に活動してまいります」と考えております」と感謝の言葉を述べました。

祝賀会では、出席した112名の会員や来賓とともに受賞を祝いました。



あいさつする今橋理事長